

仲間とかかわり、認め合う学級集団づくり
－話し合い活動を通して－

1 設定理由

本校は、全校児童137名で、どの学年も単学級である。児童の日常生活の様子に目を向けると、何事も意欲的に行ったり、責任をもって活動したりする児童が多い反面、思いを上手く言葉にできず友だちとトラブルを起こしたり、自分のよさを自覚できず自己肯定感が低かったりする実態が見られる。また自ら問題を解決してよりよく生きようとする意欲も高くない。学校評価の結果からも、人間関係づくりに関する要望が多い。

このような現状から、児童の自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤に必要な望ましい人間関係を築くという特別活動の実践研究が必要であると考えた。また、JRC活動加盟校として、児童の活動にJRCの態度目標を生かすことで、本校の教育課題である「豊かな心を持つこと」や目指す児童像である、「気づき 考え 実行できる久賀っ子」にも合致すると考えた。

2 研究仮説

学級活動の話し合い活動において、指導すべき内容やとりくむべき活動、児童に身に付けさせたい知識・技能等を明確にし、その指導方法や題材、素材を工夫することで、仲間とかかわり、認め合う学級集団づくりができるであろう。

3 研究内容

- (1) 児童が主体的に話し合い活動を進めるための工夫
- (2) 児童が積極的に自分の意見を発表するための工夫

4 結論

- 宿泊学習という、子どもたちが楽しみにしていることを議題にすることで、当事者意識をもって意欲的に話し合いをすることができた。
- グループでの話し合い活動を設定することで全員の発言の機会をつくることができ、普段あまり発言しない児童もよく意見を言っていた。また、グループでレクを決めるのではなく吟味する形をとったことで、次時の全体の話し合いでは、1つ1つのレクについて説得力のある意見を出すことができた。
- グループ活動にすることで、机間指導をしていても良い話し合いを教員が聞き逃してしまうことがある。

香取支部
多古町立久賀小学校
山田 咲

1 研究主題

仲間とかかわり、認め合う学級集団づくり ～話し合い活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題

知識基盤社会、先行き不透明な社会の中で、たくましく生き抜く児童の育成が求められている。また児童を取り巻く社会環境は、変化が激しく、コミュニケーション能力の未発達からくる対人関係のトラブルやいじめなどの深刻な状況があるといわれている。

(2) 研究経過

本校では、平成27年度、28年度と香取小中学校体育連盟から研究指定を受け、「できる楽しさを味わうゲーム・ボール運動の授業をめざして」を研究主題として体育科の授業研修を2年間進めてきた。校内研究を進めてきた結果、授業の中では児童どうしがよい点や努力点を認め、互いに協力し、助け合う児童の姿が見られるようになってきた。

(3) 児童の実態

本校児童の日常生活の様子に目を向けると、何事も意欲的に行ったり、責任をもって活動したりする児童が多い反面、思いを上手く言葉にできず人間関係づくりに戸惑ったり、自分のよさを自覚できず自己肯定感が低かったりする実態が見られる。また、自ら問題を解決してよりよく生きようとする意欲も高くない。学校評価の結果からも、人間関係づくりに関する要望が多い。

(4) 本校の教育課題

こうした現状を踏まえると、児童の自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤に必要な望ましい人間関係を築くという特別活動の実践研究が本校には必要であると考えた。また、本校はJRC活動加盟校である。JRC活動の態度目標では、「自ら自分の生活や社会の問題に気づく(気づく)」、「原因と解決のための筋道や方法を考える(考え)」、「問題解決のために具体的な活動を実行する(実行する)」の3つを挙げている。児童の活動にJRCの態度目標を生かすことで、本校の教育課題である「豊かな心を持つこと」や本校がめざす児童像である、「気づき 考え 実行できる久賀っ子」にも合致すると考えた。

3 研究の仮説

学級活動の話し合い活動において、指導すべき内容やとりくむべき活動、児童に身に付けさせたい知識・技能等を明確にし、その指導方法や題材、素材を工夫することで、仲間とかかわり、認め合う学級集団づくりができるであろう。

4 研究の実際

第4学年

議題「キャンプファイヤーのレクを決めよう」

(1) 学級の実態

本学級は、在籍児童が男子9名、女子10名、合計19名である。全体として明るく、仲が良く、何事も一生懸命取り組む児童が多い。4月から委員会活動や部活動が始まり、

上学年としての自覚を持ち始め、新しいことにも意欲的に挑戦している。生活面では、きまりを守ったり、言われたことはすぐ行動に移したりと、素直な面がある一方、自分で考えて行動する力はまだ弱い。また学習面では、自分の課題が終わったら悩んでいる友達のところへ行き、積極的に教え合うことができるようになってきた。しかし、授業中積極的に挙手するのは一部の児童で、皆指名すれば発言できるが、自分から発言しようとする児童は少ない。

今年度になり、学級会では、「今月の目標を決めよう」「運動会の種目を考えよう」などの議題について話し合いをしてきた。全員が1つ以上意見をもって話し合いをするようにしたが、反対意見が出るとすぐに譲ってしまったり、一部の児童の意見で決まってしまうと、活発な話し合いはまだできていない。

〈話し合い活動についてのアンケート〉

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
① 話し合い活動が好き。	3	1 1	3	2
② 全体の話し合いで自分の意見を言うことができる。	3	6	6	4
③ グループの話し合いで自分の意見を言うことができる。	6	1 1	2	0
④ 友達の意見と自分の意見をくらべながら話し合いができる。	7	6	2	4
⑤ どうしたらよい話し合いができると思うか。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで意見を言い合う。 ・自分の意見を積極的に言う。 ・みんながわかるように意見を言う。 ・友だちの意見をよく聞く。 ・友だちの意見に自分の意見を付け足す。 ・決まったことに対して文句を言わない。 			

話し合いに関する実態調査をしたところ、半数以上が話し合いは「好き」「どちらかといえば好き」と答えており、「友だちといろいろなことを話し合うのが楽しい」「発表するのが好き」と、前向きに考えていることがわかった。また、全体の話し合いで自分の意見を言えるか聞いたところ、半数が「できる」「どちらかといえばできる」と答えているのに対して、グループの話し合いで自分の意見を言えるか聞くと、ほぼ全員が「できる」「どちらかといえばできる」と答えた。「みんなの前だと恥ずかしいけれど、グループなら意見が言える」と、少人数での話し合いを好む傾向が見られた。

(2) 議題選定の理由 (指導観)

本校では、毎年4、5年生合同で宿泊体験学習を行っている。4年生にとっては初めての宿泊行事になるが、昨年の様子について写真を見ながら話を聞き、友だちと一緒に学校ではできない様々な体験ができることをとても楽しみにしている。

また、宿泊体験学習では、本校の教育目標である、「気づき、考え、実行する久賀っ子」を育成するため、教師がなるべく手を貸さず、できることは全て児童に任せていけるようにしている。昨年度経験している5年生がリーダーとなって進めていくことになるが、4年生にも役割を与え、主体的に活動する場を作りたいという思いから、キャンプファイヤーのレクを担当させることにした。内容を決めるところから、準備、当日の進行までを務め、「自分たちで宿泊体験学習を作り上げた。」という達成感を味わわせたい。楽しみにしている行事であること、4年生が主体でレク全体を進めるという責任感があることから話し合いにも意欲的になれると考え、本題材を取り上げ話し合うこととした。

(3) 具体的手立て

ア 児童が主体的に学級会（話し合い活動）を円滑に進めるための工夫（教室環境、教材教具の工夫）

実態調査から、話し合い活動をする際、全体の場ではなかなか発言できなくても、小集団の中では自分の意見を言える児童が多いことがわかった。そこで、グループでの話し合いを設定することで、全員が発言しやすいようにする。また、事前に意見カードを準備しておくことで、意見をたくさん言えるようにする。

書記は、出た意見を模造紙に書いておくことで視覚的にも話し合いの状況がわかるようにし、全体の話し合いの場でもその模造紙を見ながら意見を言うことができるようにする。

イ 自分の考えをもち、互いに認め合うための教師の支援・指導・助言

各グループの司会になった児童、書記になった児童へ事前指導をする。司会は進行表を参考に進めていくことを確認し、書記は模造紙へのメモの仕方を確認する。

グループでの話し合いでは、案として出たレクについて、宿泊体験学習のねらいに添っているかを中心に吟味し、全体の話し合いに繋げられるようにする。グループを編成する際は、似た案をもっている児童を集める。出た案の良い部分を認め合いつつ、問題点やねらいに添っているかを考えて話し合っているようにする。

(4) 学級活動(1)の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
宿泊体験学習や、キャンプファイヤーの活動に関心をもち、より良いものにしようと他の児童と協力して、進んで話し合いや活動に取り組もうとしている。	宿泊体験学習での自己の役割と責任を自覚し、他の児童の意見を尊重しながらキャンプファイヤーのレクを考え、信頼し支え合って実践している。	宿泊体験学習やレクを行うことの意義、参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。

(5) 事前の活動

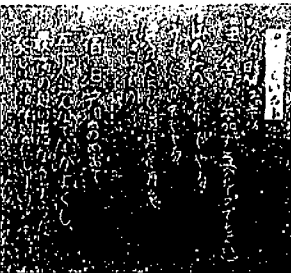
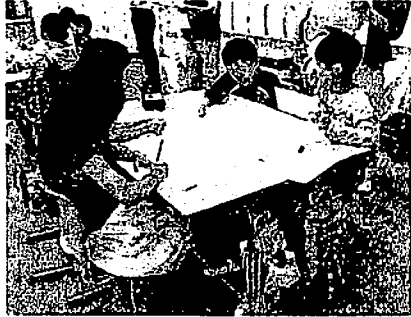

日時	活動の内容	指導上の留意点	めざす児童の姿と評価方法
6月 6日 (昼休み)	議題を決定する。	レクリーダーが5年生の所へ行き、レクを担当したい旨を伝える。	【関心・意欲・態度】 キャンプファイヤーのレクを自分たちで行おうと意欲的に5年生に話すことができる。 〔観察〕
6月 7日	レクについて調べる。	4、5年生の仲がいつそう深まり、みんなが楽しめるレクという視点で調べるよう助言する。	【関心・意欲・態度】 キャンプファイヤーの活動に関心をもち、意欲的にレクを調べている。〔観察〕
6月13日まで (授業の始まりや学級遊びの時間等)	レクを実践する。	調べたレクを実際にやってみたり、教師からレクを提示したりすることで、たくさん案が出せるようにする。	【関心・意欲・態度】 楽しく、協力してレクに参加することができる。〔観察〕
6月14日	グループワークを行う。	レク感覚のグループワークを通して、意見を言うことの大切さやグループでの話し合い方を学ぶ。	【思考・判断・実践】 グループワークで自分の意見を積極的に言うことができる。 〔観察〕
6月16日 (業間)	意見カードに自分の意見をまとめる。	宿泊体験学習の意義や、キャンプファイヤーの位置づけ、レクの目的を再確認し、一人一人に意見をもたせる。	【関心・意欲・態度】 キャンプファイヤーにふさわしいレクを考えることができる。 〔意見カード〕
6月19日 (昼休み)	司会、書記の打ち合わせ	司会は、進行表を見ながら、円滑な話し合いができるよう確認する。書記は、横造紙への記入の仕方を確認する。	【知識・理解】 話し合いの進行の仕方について理解することができる。〔観察〕

(6) 本時の展開

ア 本時のねらい

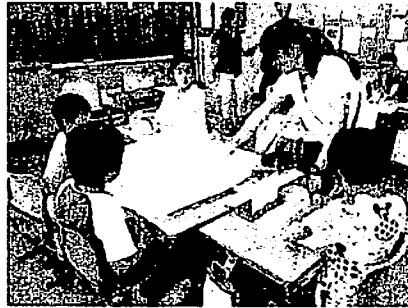
グループで積極的に意見を言い合い、お互いの意見を聞き合いながら、キャンプファイヤーで行いたいレクについて吟味していくことができる。

イ 本時の展開

活動の内容	指導・支援の実際 ○児童の様子や発言	めざす児童の姿と 評価方法
1 はじめの言葉 2 議題の発表・確認 3 提案理由の説明 4 話合いの内容や進め方の確認 5 決まっていることの確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな声で言えるよう、事前に流れを確認し、自信を持たせた。 ○ 自信をもってはきはきと進めることができた。 ・ 話し合う意義が伝わり、進んで話合いができるよう、丁寧に説明させた。 ○ 宿泊体験学習のねらいやレクの目的、位置づけ、行う場所、時間を確認した。 	
6 話合い（グループ討議）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループの司会は、進行表に沿って進められるようにした。 ○ 事前に書いた意見カードを提示しながら発表した。  <ul style="list-style-type: none"> ・ 出た案が宿泊体験学習のねらいに添っているか、また、発生しうる問題に対してどのような改善策があるかを話し合わせることで、次時の全体の話合いでは理由を明確にしながらかが決められるようにした。 ・ 書記が模造紙に意見を書いていくことで、出ている意見が共有できるようにした。 ○ 1つ1つのレクについてじっくり考えるグループや、似 	<p>【思考・判断・実践】 お互いの意見を認め合いながら、積極的に意見を出し合っている。</p> <p>〔観察〕 〔振り返りカード〕</p> 

ているレクをまとめて話し合うグループなど、それぞれ工夫して進めていた。

- 「決まっていること」の条件を考え、それに関して出てくる問題の解決策を話し合うグループもあった。
- ・ 話合いが滞っているグループには、宿泊学習のめあてにもどって考えてみるよう助言した。
- 「50人みんなで仲良く」できるためにはどのようなレクが良いか考えた。



- 7 各グループで話し合ったことの発表
- 8 話合いの振り返り
- 9 先生の話
- 10 おわりの言葉

- ・ 決まったことを簡潔に発表できるよう、発表の仕方の型を作っておいた。
- 特によく話し合ったレクについて紹介した。



- ・ 本時の話合いを振り返り、自己評価をさせた。
- ・ 各グループの話合いの仕方でも良かった点を具体的に称賛し、次回は全体の話合いに生かせるようにした。

ウ 本時終了後の振り返り結果

	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
① 自分の意見をはっきりと言うことができた。	1 2	5	1	1
② 友達の意見をよく聞くことができた。	1 3	6	0	0
③ 友達の意見に対して、疑問に思ったことを質問した。	1 0	4	2	3
④ レクについて、めあてを意識しながらよく考えた。	7	1 2	0	0
⑤ 楽しく話合いができた。	1 2	5	1	1

話合い活動終了後の振り返りでは、上記の項目について自己評価をした。どの項目も、達成できたと良い評価をする児童が多かったが、「友達の意見に対して、疑問に思ったことを質問した。」という点については他の項目と比べてやや低い評価だった。小集団の中で、用意してある意見を言ったり、友達の意見を聞いたりすることはできても、出た意見について自分の考えをもったり、質問したりすることはまだできない児童もいたようだ。話合いの「比べる」段階の指導が更に必要だと考えた。しかし、「自分の意見をはっきりと言うことができた。」については、事前アンケートの「グループの話合いで自分の意見を言うことができる。」の回答に比べて評価が上がっていた。

(7) 事後の活動

本時の次の活動では、全体でレクを決定する話合いを行った。グループの話合いで使った模造紙を用意し、話し合ったことを生かして参考にしながら意見が言えるようにした。また、宿泊体験学習のねらいや、「決まっていること」を意識しながら最終決定ができるようにし、適宜助言を入れながら3つのレクを決めることができた。この話合いでは、事前にグループでレクについて吟味していたので、具体的な説得力のある意見が多く出て、以前より活発な活動となった。今まであまり発言しなかった児童が挙手をしてはっきりと意見を言う姿も見られた。

レク決定後、全員が3つのグループに分かれ、各レクの詳しいルールを決め、進行の練習を行った。どの児童も担当となったことでそのレクに責任をもち、みんなが楽しめるようなルールを考えたり、実演を入れたわかりやすい説明の仕方を考えたりしていた。当日までたくさん練習したことで、本番では自信をもって進行をすることができた。キャンプファイヤーのレクは5年生も楽しんで参加しており、自分たちで話し合っただけのレクをみんなですべてできたという満足感、充実感を味わうことができた。

5 成果と課題

(1) 児童が主体的に学級会（話し合い活動）を円滑に進めるための工夫（教室環境、教材教具の工夫）

成果

- ・ 宿泊学習という、子どもたちが楽しみにしていることを議題にすることで、当事者意識をもって意欲的に話し合いをすることができた。
- ・ グループでの話し合い活動を設定することで、全員の発言の機会をつくることができた。普段あまり発言しない児童も意見を言っており、自己評価でも、「自分の意見を言うことができた。」と、評価していた。
- ・ 意見カードを模造紙に貼っていくことで、意見を言いやすく、視覚的にもわかるので比べやすかった。

課題

- ・ 意見カードを用意しておくことで、模造紙に貼って終わりという面もあった。
- ・ グループにすることで、机間指導をしていても良い話し合いを教員が聞き逃してしまうことがある。

(2) 自分の考えをもち、互いに認め合うための教師の支援・指導・助言

成果

- ・ グループでレクを決めるのではなく吟味する形をとったことで、次時の全体の話し合いでは、1つ1つのレクについて説得力のある意見を出すことができた。
- ・ 常に宿泊学習のめあてを意識させたことで、めあてを達成するためのレクという視点で考えることができた。
- ・ 友達の意見に対して、良い部分を積極的に言い合うことができた。

課題

- ・ 「決まっていること」を視点に話し合いができると良かった。
- ・ レクそのものの問題点（けんかが起こる等）の解決策を話し合うことが中心になってしまい、キャンプファイヤーで行うという場面に対する問題点を話し合わせる意識付けが足りなかった。

資料

話し合い活動についてのアンケート

名前()

① 話し合い活動は好きですか。

好き どちらかと言えば好き どちらかと言えば嫌い 嫌い

理由()

② 全体の話し合いで自分の意見を言うことができますか。

できる どちらかと言えばできる どちらかと言えばできない できない

③ グループで話し合うときに自分の意見を言うことができますか。

できる どちらかと言えばできる どちらかと言えばできない できない

③の理由()

④ 友だちの意見を自分の意見とくらべながら話し合いができますか。

できる どちらかと言えばできる どちらかと言えばできない できない

⑤ どうしたらよい話し合いができると思いますか。

()

意見カード

名前)

やりたいワーク		
理由(アピールポイント)		
おもしろい質問		
からけいけん		

★学級会 進行の仕方★

1 はじめの言葉

今から、「第〇回学級会」を始めます。礼。

2 司会グループのしょうかい。

司会の（ ）です。

ふく司会の（ ）です。

黒板書記の（ ）です。

ノート書記の（ ）です。

今日は、このメンバーで進めていきます。よろしくおねがいします。

3 議題のたしかめ

今日の議題は、『 』です。

4 ていあん理由のせつ明

ていあん理由を（ ）さんに言ってもらいます。おねがいします。

（ ）さん、ありがとうございました。

5 決まっていることのかくにん

黒板を見てください。決まっていることは、『 』です。

6 話し合い

今日の話合いのめあては、『 』です。

今日はグループごとに出たレクについて、宿泊学習のめあてにあっているかを話し合います。

かくグループの進行と書記の人を中心に進めましょう。

それでは、グループにわかれてください。時間は〇分までです。

7 話し合ったことの発表

グループで話し合ったことを発表してください。書記の人は前に出てきましょう。

〇班お願いします。

8 話し合いのふり返し

今日の話合いについてふり返しカードに書いてください。

10 先生の話

先生、おねがいします。

ありがとうございました。

11 終わりの言葉

次回は、〇〇について話し合います。

これで、第〇回学級会を終わりにします。礼。

学級会計画カード

名前()

議 題		提案
提案理由	<hr/> <hr/> <hr/>	
話合いの めあて	<hr/> <hr/>	
話合いの しかた	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	

ふり返り

★5つのこうもくについてふり返ろう。

4.できた 3.どちらかと言えはできた 2.どちらかと言えはできなかった 1.できなかった

①自分の意見を言うことができた。	
②友達の見解をよく聞くことができた。	
③友達の見解にたいして、ぎもんに思ったことをしつ問した。	
④レクについて、めあてを意しきしながらよく考えた。	
⑤楽しく話合いができた。	